



日本留学を終えて

社会科学部研究科留学生

ワンペン デスグパクル
WANPEN DESUGPAKUL

今日は!

3年半にわたって、広島で生活をしつづけてきました。この間で色々なことを振り返ってみれば、その時期によって、日本に対する感じ方が異なっていると気がきました。具体的に言えば、1年目の初期で広島での暮らしの上で、日本では、様々な便利な設備に囲まれて、国内のほうも安全で、私にとっては、日常生活の面で非常に便利であると思っていました。そう思いながら、たくさんの日本の仲間を作ろうという強い意欲を持っていました。ところが、仲間を作るのはとても難しく、なかなか見つけなかったのです。それは日本語で喋ると言いたいことがある時になかなかうまく言えなく、色々なことを言っても、通じなかった時もよくあります。または通じて、同じ理解ではない時もあります。これは日本人と外国人との間での一方通行のようなコミュニケーションではないのでしょうか。したがって、当時寂しい思いがあったのです。よい友達がいなかった時、精神的に悪くなり、結局、日本の仲間を作ることをあきらめました。

2年目に入ってどんどん外国留学生の友達と付き合っ、様々な国の仲間ができました。それはおそらく同じ外国人留学生であり、同じ問題をかかえているので、お互いに理解しあいやすいかもしれないのです。さらに異なっている考え方があってもお互いに認めあえます。だから、外国人留学生の間では友達になりやすいと思います。この間、色々な人々と出会って、明るい生活ができるようになりました。ところが、友達と出会って、やはり別れることもあります。

特に良い友達と別れる時にととてもつらく感じています。そして友達と出会ったり、別れたりすることは何回も振り返って、こうしたことから私にとっては一つの勉強になりました。すなわち、人と別れるために出会う、また出会うために別れるということだと信じています。したがって、友達と別れる時に「さよなら」と、言わずにいつも「またいつか会う」というように友達に伝えました。けれども、一生の別れという場合もあるかもしれませんが、もし、便りがもらえばそれだけでうれしいことだと思っています。

3年目になって広大な千田町 CAMPUS では新しい外国留学生の姿が見えなくなりました。ほとんどの留学生は西条の CAMPUS へ行っています。したがって、私は新しい出会いもほとんどなかったのです。とりわけ、この間、卒業するために、論文を書かなければならなく、論文のを中心にして、非常に忙しい時期でした。論文を書いているうちに私にとってかなり体力を使い、肉体的に精神的に大変疲れました。このうちにもある日本の学生に私の論文のことをずっと手伝ってもらいました。さらに、様々なことを教えてもらったり、意見を交換してもらったりして、その人を一人の良い友達として認められるようになり、その人にいつでも感謝の気持ちがあります。

これから、だんだん日本からはなれます。3年半の間、外国人の友達および日本の友達と出会いができ、貴重な体験であり、友達というものは大切な宝であると思っています。

最後に日本の学生と外国人留学生との間にもっと良い友達になってほしいと私はさらに強く願うようになりました。